

なければ、次第に意欲は減退し、良い自己イメージを育んでいくことはできにくい。

図3

【児童生徒】 自分の意見を、きちんと主張することができますか。

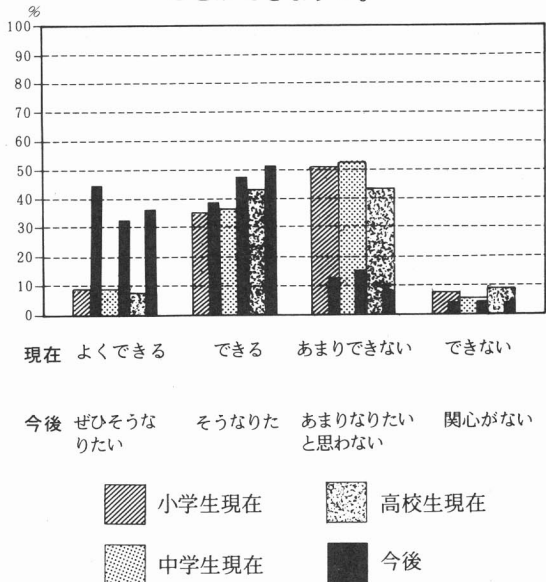


図4

【教師】 必要な時に自分の考えを主張できる子どもに育てようと配慮していますか。

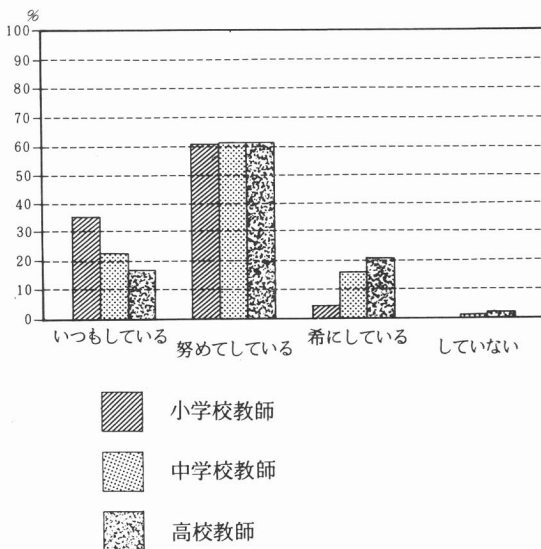


図3の現在から「よくできる」「できる」を合わせると、小学生43%・中学生44%・高校生49%である。

このことから、「よくできる」「できる」の児童生徒が、50%に満たないことは、自分の考えに自信や誇りを持っていないと考えられる。

また、今後は「ぜひそうになりたい」「なりたい」を合わせると、小学生83%・中学生80%・高校生86%であり、大半の児童生徒が、自分の考えを主張できるようになりたいと望んでいることが分かる。

図4から教師は「いつもしている」「している」を合わせると、小学校96%・中学校83%・高等学校77%と高く、教師は、主張できる子どもに育てようとしている。

図5

【保護者】 あなたのお子さんは、自分の意見を主張できると思いますか。

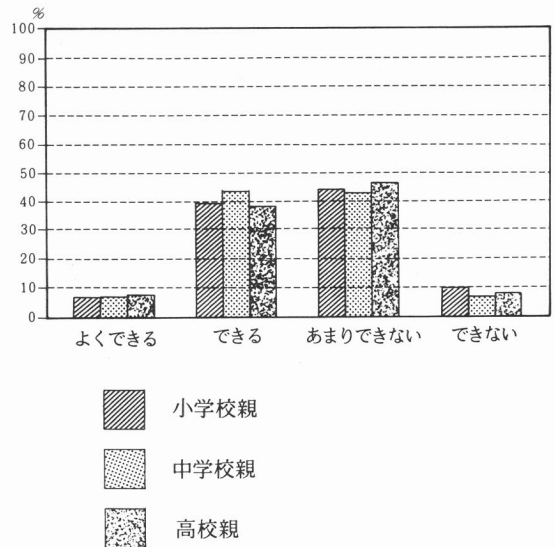


図5から、保護者は「よくできる」「できる」を合わせると、小学校47%・中学校51%・高等学校46%であり、児童生徒の意識とほぼ同じ傾向を示しており、子どもをよく理解していることが分かる。

教師が指導援助しているにもかかわらず、児童